

自分を信じること、こころの耳に耳をすますこと、悲しいときに泣けること…。
自分の中に、自分で、自分の種をまいてゆっくり育てていきましょう。

お話スキルアップ講座

平成21年度笛吹市民講座
「スコレー大学」1学期講座

笛吹市石和図書館 ブックアドバイザー
主幹 司書 雨宮 真由美

初心者向けに、本の読み聞かせを中心とした教養講座。
読み聞かせボランティア養成講座。

日 程：えほんの楽しさ・大切さ・ボランティアと図書館

本の選書・読み聞かせの方法とポイント

ブックスタート・読み聞かせ実践

ブックトーク・読書アニメーション・読み聞かせ実践

ストーリーテリング・えほんが好きになる読み聞かせ

■子どもと本を仲良しにするための5箇条

1. 絵本を読んでもらうこと。それが、子どもにとって読書の第一歩（耳からの読書）。
2. 絵本であればなんでもよい、というわけではない。優れた絵本こそが、子どもの心を育てる力に恵まれている。
3. どんなに優れた本であっても、与え方に気をつける。
4. 優れた作品に出会うには、それなりの手間と工夫が必要。
5. 「いつも身近に本がある」・・・さりげない動機付けが子どもを本好きにする。

■ことばが育てるいのちと心

赤ちゃんからの“ことば教育”・・・人間をつくるのは「ことば」

子どもをめぐる事件が続いている。どうすれば、子どもは人間としてすこやかに育っていくのだろうか。

赤ちゃんの時から、子どもたちに、やさしく、あたたかい、丁寧なことばを伝えていくことの大切さ。

子どもがえほんを読んでもらっているとき、その内面では、人間形成にとって大切な

働きが行われている。ことばを聞き、そのことばに込められた豊かなイメージ自身の中に形作っていくこと。その力を養うことことは大切なこと。聞くことの第一歩はスキップからはじまる。

■読み聞かせとは

私たち大人の役目・・・本の楽しさを子どもたちに伝えること

文字が読めることと本が読めることは同じではない。

本を読むということは、本に書かれている世界に入ることができるということ
読み聞かせすることによって

（読み手）

1. 読み手もその時に1冊読める。
2. 声に出して読むことで、ことばの楽しさ、リズムの面白さ、響きの美しさを
知ることができ、深く読める。
3. 子どもに読んであげることによって、子どもたちの側から感動が伝わって
くる喜びを体験できる。

ともに笑いと共に感動する深い喜び

（子ども）

1. 自分で読んでいた時には知ることができなかったものを受け取る。
2. 人生経験豊かな大人の人に読んでもらうことによって、より豊かに作品を味
わうことができる。
3. 読んでくれる大人の心をもらえる。（ともにいる喜び）
4. 友だちの感動が伝わる。

■えほんとは

- ・子どもに読ませる本ではなく、大人が子どもに読んであげる本。
- ・えほん体験は、子どもにとっての人生経験。
- ・えほん時代は、心を育てる時代。
- ・優れたえほんは、子どもたちのものを見る目を養う。